

気になる話題  
PICK UP!

## 佐野病院創立 125 周年記念作品「Animal Parade」完成



今年の125周年を記念して、イラストレーターの海一慶子さんに特別に描いていただいたアクリル画「Animal Parade」がついに完成。病院1階の待合ロビーにお披露目されました。

病院内を明るく照らすような、楽しげで印象的な「Animal Parade」には、50匹近いさまざまな動物が描かれています。海一さんによると「仲良く楽しく、希望に満ちた新天地へ引っ越しする人、動物たちになぞらえて描いた作品」とのこと。125周年を迎え、スタッフ一丸となって次なるステージへ進もうとする佐野病院のイメージと、重なるものがあります。制作期間は約半年…。横2m×縦1mという大きなサイズに合った構図と配色のバランスが大変難しかったそうで、何度も何度も描き直しされたそうです。

「どうしても閉鎖的になりがちな病院の空間が、この作品によって開放感を持ち、森や真っ青な空など、自然の温もりを感じられることで、患者様の気持ちを少しでも穏やかにすることができれば大変うれしい」と海一さん。よく探さないと見つけられない動物や、白衣に内視鏡を持った佐野院長似?のウォンバットなども描かれています。病院に来られた際には、ぜひ楽しみながらご覧ください。



海一 慶子 (かいち けいこ)

ポローニャ国際絵本原画展2009入選  
2006年 第24回 MOEイラスト・絵本大賞入選  
2007年 第28回 MOEイラスト・絵本大賞入選  
2008年 第34回 MOEイラスト・絵本大賞最優秀賞  
2012年 第53回 MOEイラスト・絵本大賞入選  
2012年 第55回 MOEイラスト・絵本大賞入選

### 各交通機関のご紹介

- JR舞子駅・山陽電車 舞子公園駅から  
53・54系統 学園都市駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- 神戸市営地下鉄 学園都市駅から  
53・54系統 舞子駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- JR垂水駅・山陽電車 山陽垂水駅から  
2系統清水が丘行 清水が丘停留所下車



医療法人 薫風会 佐野病院  
SANO HOSPITAL  
FOUNDED 1888

〒655-0031 神戸市垂水区清水が丘2-5-1  
TEL: 078-785-1000 FAX: 078-785-0077

編集・発行: 地域医療連携室

診療科目: 内科、消化器センター(消化器内科・消化器外科・  
内視鏡治療・化学療法)、緩和ケア支援部門、整形外科、  
リハビリテーション科、婦人科、放射線科

URL: <http://www.sano-hospital.or.jp/>

理念 医 地域医療への貢献 患者さんの立場に立った医療  
経 健全な経営 着実に前向きな病院の発展  
倫 悔いなき職場 生活と人格の向上

- 方針
1. 私達は、患者さんの病を癒し、苦しみを和らげ、延命に努めることを誓います。
  2. 私達は、患者さんの人格・人権を尊重し、合意を旨とし、信頼に応えることを誓います。
  3. 私達は、法を遵守し、過誤を防ぎ、生涯、医の知識と技術の研鑽に励むことを誓います。
  4. 私達は、職員相互の職分を理解し、尊敬し、協力して患者さんの医療に当たることを誓います。

当院に関するお問い合わせ窓口 地域医療連携室(直通) TEL: 078-785-1306 / FAX: 078-785-1905

# SANO HOSPITAL NEWS

医療法人 薫風会 佐野病院  
編集・発行: 地域医療連携室

DECEMBER 2013

12

URL: <http://www.sano-hospital.or.jp/>



## 進化する看護体制 看護の「質」を高める「7対1看護」

「安心」「安楽」「安全」をモットーに、患者さまを思いやる気持ちを大切にされた看護を追求している佐野病院。

5月には山本由香子看護師が新たな看護部長に就任し、新体制がスタート。続いて7月からは、さらなる看護の充実をめざして、これまでの「10対1看護」から「7対1看護」へと看護体制が大きく変更されました。ますます進化する佐野病院の看護について、山本看護部長に聞きました。

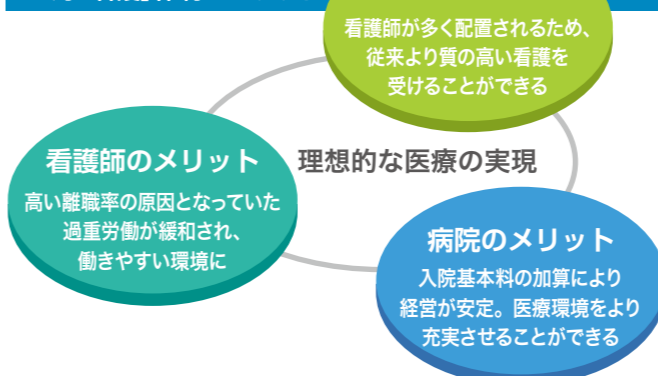
### ■10対1から7対1へ

「7対1看護」とは、2006年の診療報酬改定で設けられた制度であり、24時間の看護配置の中で、1名の看護師が7名以下の患者さまのケアを担当する看護の仕組みを指します。

これまでは1名の看護師が10名以下の患者さまをケアする「10対1看護」でしたが、1名の看護師が多くの患者さまをケアする必要があったため、患者さまからは「看護師さんがいつも忙しそうで、声がかげづらい」「もっと看護師さんとゆっくり話せる時間がほしい」といったご要望が寄せられていました。

この現状を改善するために、7月から「7対1看護」をスタートさせ、患者さまにより手厚い看護を行うためのさまざまな取り組みが始まっています。

### 「7対1看護」体制のメリット



### ■より患者さまに寄り添った看護に

7対1看護体制を実施するために、まず、看護師の人数を大幅に増員しました。この結果、各病棟において、1日に受け持つ患者さまの人数が少なくなり、以前に比べると、患者さま一人ひとりと、ゆっくりと関わるできるようになりました。

また、7月以前は、いくつかの役割を兼務していた看護師も数多くいましたが、7月以降は、看護師の人数が増えたことで、本来の自分の役割に専念できる体制となり、時間外勤務の減少と看護師の疲労感の軽減につながり、看護の「質」もさらに向上しています。

佐野病院がめざす患者さまに寄り添った看護が、より実現しやすい環境が整ったことは、もちろん大きな前進です。それと同時に、医療現場の看護師が、7対1看護のメリットを実感できることが、看護の充実のために非常に重要だと感じています。

### ■看護師が働きやすい病院へ

7対1への変化だけにとどまらず、今後は高齢化社会が加速する中で、在宅介護を見据えた看護の追求や外来と病棟の看護の壁を取り払う縦割り看護の実施なども視野に入れ、さらに充実した看護体制の構築をめざしています。

このような理想的な看護環境を追求することで、看護師一人ひとりが患者さまのことを深く思いやることができ、やりがいをもって仕事に取り組むことができます。つまりは、患者さまはもちろん、同じ医療に携わる方に「ぜひ、この病院で働きたい!」と思っただけ「看護師に選ばれる病院」へと飛躍していきたいと思っています。

看護部 部長  
山本 由香子  
yamamoto yukako

内科病棟、中材・手術室で経験を積み、  
2008年8月、OP室室長  
2011年4月、消化器センター病棟室長  
2012年11月、看護次長  
2013年5月より看護部長就任



## 特集

看護に対する院長の視点、  
看護部長の思い

約半年前の5月。新しい看護部長に就任したのは、山本由香子看護師。若く、行動力のある看護部長が、今後どのように佐野病院を変えていくのか、大変楽しみです。

新しい看護体制となった佐野病院が、今後めざす看護のビジョンとは？ 佐野院長と山本看護部長に対談を通して理想の看護について語り合っていました。

## 「7対1看護」への対応

— 5月に山本看護部長が誕生したわけですが、新しい看護のリーダーに、どのようなことを期待されていますか？

**院長** 山本看護部長は、リーダーになれる存在感と雰囲気を持った方だと思っています。そして何よりも、自分の意見をしっかりと持っておられる。そんな若いリーダーに、いい意味で看護部をどんどん変えていってほしいと思っています。



**山本** 院長から看護部長のお話をいただいた時は、自分に看護部のリーダーが務まるのか全く自信が持てず、お受けするかどうかが随分悩みました。でも、院長にガツン！と喝を入れていただいて（笑）、衝撃ではありましたが、うれしくもあり、チャレンジしてみようという気持ちになりました。

**院長** 山本看護部長が就任されてすぐ、看護体制が「7対1体制」に切り替わりました。そのタイミングも良かったように思います。

**山本** 「7対1体制」になったことで看護師の数がぐんと増え、まとめるという面では大変になりましたが、患者さまとゆっくり向き合う機会が増え、看護の質という面においては、間違いなく良い方向に進んでいると実感しています。



**院長** 2007年に私が院長に就任した時から、看護の「7対1体制」は当然頭にあって、それを実現するために、徐々に病院の基盤を整えてきたつもりです。病院スタッフの皆さんの協力もあって、当初頭に描いていたよりも、若干早期に看護体制を変えることができ、まずはスタートを切れたことに対して、素直にうれしく思っています。

## 新看護部がめざすビジョン

— 「7対1看護」を皮切りに、今後、看護部はどのように変化していくのでしょうか？

**山本** これからは高齢化社会が加速するため、在宅医療が大変注目されています。このような社会の流れに合わせて、病院での看護も、退院後の生活を見据えて行う必要がでてくると思っています。当院でも地域医療連携室に看護師が加わるなど、退院後のケアまでを考えた医療体制づくりを進めている最中です。

また、看護部内の連携をより充実させるために、今まで別部署として動いていた外来と病棟の看護を一元化できればと考えています。病棟での看護を担当する看護師が、外来の診察時から患者さまの状態を知っておくことは、その後の看護に大変役立つことが多いです。



**院長** 恐らく、今までの流れを変化させる時は、問題点なども多々出てくると思います。ただ、「こうなりたい、こうしたい」というビジョンがあることは、大変良いことです。一番ダメなのは、現状に甘んじて何もしようと思わないこと。いろいろな方法を模索して、佐野病院に合った「佐野式看護」の形を、山本看護部長に、ぜひ作り上げていただきたいと思っています。

**山本** 院長は、常に前向きでパワフル。そして、温かく大きな手で支えていただいているようで、安心してついていくことができます。看護部一同、院長に置いていかれないように（笑）、必死で前を向いて走ろうと思います。つい最近も、24名から成るプロジェクトチームの、初回顔合わせを行ったばかりです。さまざまな部署が協力してプロジェクトを進めていくことで、部署間の壁も、今以上に無く

してきたいですね。

**院長** 山本看護部長の良さの一つは、現場を大事にするところだと感じています。自分が看護の現場で感じた問題点やアイデアは、これからの看護部の体制づくりに、必ず生きてくるはずですよ。

## 理想は「選ばれる病院」

— お二人の考える理想の病院、また、看護とは、どのようなものですか？

**山本** 佐野病院の特徴の一つは、急性期病院でありながら、診断から手術、緩和ケアまで、一貫した医療が提供できる点です。この強みを活かした看護体制を作ることで、他院との差別化を図り、スタッフがやりがいを持って働ける病院が理想だと思います。

**院長** 最先端のがん医療に携わること、ドクターも看護師も同じビジョンを持ちやすいということはあるでしょうね。目指す方向性やビジョンが一つになっていることで、意思疎通が図りやすく、相互理解も深まりますから。

**山本** スタッフが同じビジョンを持ち、一つの目標に向かって進んでいる病院は、看護師にとって理想的な環境であると同時に、患者さまにとっても魅力的なはずですよ。そんな患者さまからも看護師からも選ばれる病院が私の理想です。

**院長** 病院としても、今後2～3年をかけて、病棟などの改装を行い、看護師の皆さんが快適に働ける環境づくりを進めたいと考えています。山本看護部長の理想の病院に近づこう、病院長としてもサポートは惜しみませんので、もっと魅力的な佐野病院を作り上げていきましょう。



次号より看護部の取り組みなどを紹介する連載を開始予定です。お楽しみに！

## Information

## スタッフ紹介



宮川 裕子 (ミヤカワ ユウコ)

診療技術部 薬局 薬局長

- 感染制御認定薬剤師
- 抗菌化学療法認定薬剤師
- 薬学修士
- 兵庫県病院薬剤師会理事

2011年 佐野病院入職

## ハイクオリティーな医療を追求

佐野病院にお世話になると思った一番の決め手は、専門特化した急性期病院であるという点でした。これからの時代、病院も中途半端では生き残ることができません。専門的でハイクオリティーな医療を実践されている佐野病院は、まさしくこれから望まれる病院の形だと思います。

また、ハイクオリティーなのは医療技術だけにとどまらず、そこで働くドクターをはじめとする佐野病院のスタッフも同様です。医療人としても人間としても尊敬できる方が非常に多く、大変働きがいのある職場だと、常々感じているところです。

## 学ぶこと、交流すること

薬局では、毎朝、勉強会を実施し、自分が知り得た知識を発表する場を設けています。常に勉強する姿勢、視点を持つことは大切ですが、一人でやっていると疲れてしまうこともありますので、発表の場を作り、それぞれの知識を全員で共有する機会を大事にしてい

## 新しくなった地域医療連携室

## さまざまな相談窓口として、病院の顔に！



皆さん、地域医療連携室をご存じですか？

地域医療連携室とは、患者さまやご家族さま、そして近隣の病院からのさまざまな相談を受け付ける、いわば病院の相談窓口です。

このたび、看護師1名、事務職員1名が新たにメンバーに加わり、ドクター、看護師、相談員、事務職員がタッグを組んで、病院の窓口としての役割を果たしていくことになりました。具体的には、患者さまの通院や入院に伴うさまざまなお悩みや問題を一緒に

ます。

また、知識をつけるとともに、人間性を高めることも大切だと思っています。人間的な成長が、仕事の成長にもつながっていくからです。そのために、院内の他部署の方との関わりはもちろん、他の病院の薬剤師の方などとも積極的に交流を持ち、自分の世界を広げていくことが必要でしょうね。いうなれば、バランスの良い薬剤師。そんな薬剤師が働く病院は、とても素敵だと思います。

## お互いの価値を認め合うことの大切さ

私が作りたい薬局は、仲間のことをお互いに尊敬できて、価値を認め合うことができる集団です。そのためには、何人よりも秀でた専門性を持つことが大切だと、常々言っています。

一言で薬剤師といっても、私が専門としている抗菌薬分野をはじめとして、がん治療薬分野、緩和治療分野、栄養輸液分野など、より専門的な知識を持つ薬剤師が必要になってきています。特に、佐野病院が特化しているがん治療や緩和治療における薬物療法は進化が著しいため、ドクターにとっても、薬剤師の知識が大いに役立つ医療分野ではないでしょうか。

薬剤師一人ひとりがそれぞれの分野でプロフェッショナルであること。そんなプロの集まりが、佐野病院の薬局でありたいと思っています。ドクターに指示されたことを、その通りに行うだけでなく、時にはドクターや看護師にアドバイスしたり、相談にも乗ることができる。そんな薬局を理想として、今後も追求し続けたいと思います。

考え、治療や療養の支援をさせていただきます。

以前は地域医療連携室がどこにあるのか分かりにくい、とのご指摘をいただいていたこともあり、現在は、外来のど真ん中への引っ越しが完了。

また、別々に業務を行っていた予約センターと統合し、患者さまにはサービス向上のため、地域医療機関にはよりスムーズに受け入れができるように体制を整えました。

より相談しやすく、立ち寄りやすい地域医療連携室をめざしています。新しい体制になった地域医療連携室を、皆さん、ぜひお気軽にご活用ください！

## 地域医療連携室へのご連絡はこちらまで

予約センター電話 (078) 785-1006

地域医療連携室電話 (078) 785-1306

地域医療連携室 FAX (078) 785-1905

受付時間 平日 9:00～17:00

土曜 9:00～12:00

※日曜、祝祭日、年末年始(12/29～1/3)は休業